

令和3年度 学校経営計画に対する中間評価

石川県立野々市明倫高等学校 No.1

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)
<p>1 書くことを基本に自らの考えを整理し、深く思考することで論理的思考力及び批判的思考力を育成し、課題発見・解決能力を身につけ生きる力を育成する。その際には、主体的・対話的で深い学びを実現する様々な手法を活用する。</p>	<p>① アクティブ・ラーニングやディスカッションを授業の中に導入するとともに、ICT機器 (iPad・Chromebook) を活用し授業力の向上を図る。</p>	<p>アクティブ・ラーニングやディスカッションさらにICT機器を活用することにより学習効果が高まった (a 強く + b やや) と感じている生徒が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満</p>	<p>感じている 28.3% やや感じている 52.7% あまり感じていない 15.4% 感じていない 3.4% 感じている+やや感じている=80.9% A評価 (昨年度) 感じている 18.9% やや感じている 56.0% あまり感じていない20.2% 感じていない4.9% 感じている+やや感じている=74.9% B評価</p>	<p>「感じている」+「やや感じている」が昨年度より6.0ポイント上回った。これはアクティブ・ラーニングやディスカッションについて、その技法や内容面が着実に改善されてきていることを意味している。日頃から授業手法や成果の共有を行い、「思考する授業」を実践し、生徒が主体的能動的に取り組む授業を増やしてきた結果である。今後、更に授業改善を実施していきたい。</p>
	<p>② 授業の中で生徒が自分の考えを述べる場面、論理的思考力を育成する場面、教師と生徒とのやりとりの場面を設定している。</p>	<p>日々の授業において、考える必要のある質問をし、生徒が発表 (発言) する場面 (a 多く + b 時々) 設定している割合が A 95%以上 B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満</p>	<p>a多く設定34.1% b時々設定55.7% cあまり10.2% d全く0.0% a+b=89.8% C評価 (昨年度) a27.6% b.62.3% c10.2% a+b=89.9% C評価</p>	<p>a(多く設定)+b(時々設定)が89.8%と昨年度同時期とほぼ同じだった。aについてだけ見れば約6.5ポイントも上昇している。ただし、昨年度末はaが最終的に36.8%まで上昇しているの、今後は昨年度同様に生徒の様子を見ながら授業改善を図り、生徒自ら主体的能動的に学ぶ力をつけさせていきたい。</p>
	<p>③ 家庭学習と授業内容の連動を図り、学習習慣の確立と学習内容の質の向上をめざす。</p>	<p>家庭学習に積極的に取り組み、十分に確保できたと考えている生徒が、 A 90%以上 B 75%以上 C 60%以上 D 60%未満</p>	<p>aよく当てはまる16.7% bやや当てはまる46.0% cあまり32.1% d全く5.3% a+b=62.7% C評価 (昨年度) aよく当てはまる14.2% bやや当てはまる58.8% cあまり23.6% d全く3.4% a+b=73.0% C評価</p>	<p>昨年度と比べC評価であることは変わらないが数値は低下している。しかし、家庭学習時間調査を見る限りでは例年並みもしくはそれ以上の学習時間は確保されている。学習に対する意識付けの指導が、1学期前半は十分でなかったことが考えられる。今後はホーム担任、授業担当者、部活動顧問など様々な教員から日々の授業に対する予習・復習の徹底や、適切な課題設定を行い、自発的に家庭学習に取り組む習慣を確立させていきたい。</p>
	<p>④ 朝学習の充実により、学びにむかう主体性を身につけ、学びの質を高める。</p>	<p>朝学習で学力や教養が身についたと考える生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満</p>	<p>【1年】 76.4% B評価 <80.4% A評価 昨年度全学年7月> 【2年】 76.1% B評価 <79.7% B評価 昨年度1年12月> 【3年】 84.7% A評価 <80.5% A評価 昨年度2年12月> 【全体】 79.3% 評価 A評価 <78.2% A評価 昨年度全学年12月></p>	<p>【1年】 比較データが昨年度全学年7月のみであるので、あまり参考にならないが、入学以来生徒たちは授業の導入として落ち着いた学習環境の中で小テストや思考の課題を行っている。各教科の小テストを通して基礎基本を身につけさせることを目的としているが、準備が不足する生徒も多数存在していることも事実である。また、週2回の思考の時間では読解力を育む課題を提示している。今後は、GIGAスクール構想の下、Chromebookの有効な利活用を促していきたい。 【2年】 過回 (昨年度1年12月) と比較すると、肯定的にとらえている割合が3.6%減少した。2年生は中だるみの時期と言われるが、小テストに合格できない生徒も多く、モチベーションの低下が原因として考えられる。動機づけを工夫し、朝学習へ前向きに取り組む生徒を増やしていきたい。 【3年】 過回比較 (昨年度2年12月) で見ると、肯定的に捉えている割合が4.2%増加している。外国語科は英文速読とリスニング演習、他の教科は小テストを中心に朝学習を行っている。不合格者の指導に各教科が工夫を凝らしおり、基礎力養成の成果が上がっていると思われる。今後はより能動的、自発的な取り組みを促したい。</p>

令和3年度 学校経営計画に対する中間評価

石川県立野々市明倫高等学校 No.1

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)
2 個別面談や学習活動を通したきめ細かな指導により生徒一人ひとりの可能性を引き出し、早期に高い進路目標を持たせ、進路実現に向けての意欲と主体性を育む。	① クラス全体の指導やきめ細かい個人面談などを通し、生徒の進路意識を高め、設定した進路目標を実現するために自ら能動的に学習し、学力を高める努力をするような意識づけを行う。	【1・2年】9月の進路志望調査で、国公立大学を目標とする生徒が A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 75%以上 【3年】9月の進路志望調査で、金沢大学以上を目標とする生徒が A 90人以上 B 70人以上 C 50人以上 D 50人未満	9月実施の進路志望調査によって集計予定。	
	② 進路指導課から各学年、教科に方針を発信することにより、教員全体の相互理解を深め、生徒の進路志望を実現するための学力向上の取組を組織的に行う。	1,2年生の学力試験で国語、数学、英語の各教科の全国偏差値が A 平均偏差値48以上 B 平均偏差値45以上 C 平均偏差値42以上 D 平均偏差値42未満	7月進研模試による 〈 〉内は昨年同時期 【1年】 国語47.2〈47.2〉 数学48.9〈47.4〉 英語44.4〈43.4〉 【2年】 国語45.6〈49.0〉 数学45.7〈48.4〉 英語46.5〈46.4〉	7月進研模試の3教科総合全国偏差値は、1年が46.4(昨年45.5)、2年が45.9(48.1)であった。昨年度の1年と比較すれば、今年度の1年は成績がよかった。今年度の2年は入学時、新型コロナウイルス感染症に係る休校期間の影響もあり、今後の伸びが期待される。評価は11月の進研模試で判断する。
	③	1,2年生の国語・数学・英語の学力試験全国偏差値54以上の生徒が A 45人以上 B 40人以上 C 35人以上 D 35人未満	7月進研模試による全国偏差値54以上の生徒 〈 〉内は昨年度同時期 【1年】 20名〈16〉 【2年】 22名〈43〉	7月進研の結果、全国偏差値54以上の生徒は1年では20名、2年では22名であった。2年は平均偏差値と同様に前年度を大きく下回った。1年においては、昨年度の1年より上回っている。評価は11月の進研模試で判断する。
	④	金沢大学以上の国公立大学合格者数が A 10人以上 B 8人以上 C 5人以上 D 5人未満 国公立大学合格者数が A 70人以上 B 65人以上 C 55人以上 D 50人以上 難関私立大学合格者数が A 10人以上 B 7人以上 C 5人以上 D 5人未満	年度末の結果によって判断。 年度末の結果によって判断。 年度末の結果によって判断。	

令和3年度 学校経営計画に対する中間評価

石川県立野々市明倫高等学校 No.1

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)
<p>3 部活動や生徒会活動の活性化とともに、地域行事への積極的参加を通して地域貢献に努める中で、視野を広げつつチャレンジ精神やレジリエンスの涵養を図り、明るく活力ある学校づくりを推進する。</p>	<p>① 保護者にPTA活動等に積極的に参加してもらい、教育活動をバックアップしてもらおう。</p>	<p>学校行事やPTA活動で保護者が来校した回数の平均が3回以上の割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満</p>	<p>7月現在、来校した回数が 5回以上 2.5% 4回 2.5% 3回 16.3% 2回以下 78.8% 3回以上 21.3% D評価</p>	<p>9月現在3回以上来校されている方が21.3%である。挨拶運動は中止、5月のPTA総会も書面表決、8月は明倫祭も非公開など感染症予防のため、あまり来校いただけない状況だった。2回以下が78.8%となったのもやむを得ない結果である。現在も不要不急の来校を控えるようお願いしている。以上の現状より、今回、本項目の数字達成は分析する性質のものではないと考える。当面、保護者の活動については形態を検討し、来校の機会がある場合はいっそう安全に留意するなどを心掛けたい。</p>
	<p>② 本校の教育活動、生徒の活動の成果をホームページ上に掲載し、広く情報を発信する。</p>	<p>ホームページ上の更新回数が A 100回以上 B 80回以上 C 60回以上 D 40回未満</p>	<p>100回以上 A評価 (昨年度) 200回以上 A評価 更新内容 トップページ56回ははじめ、部活動、月ごとに月間行事計画、学年通信、保健だより、学校紹介動画 等の更新をしている。</p>	<p>昨年度に引き続き学校を公開する機会が限られていたため、学校紹介動画を作成するなどして、広く情報を発信している。ホームページの構成を工夫し、多くの教員が作成できるようにすることでより魅力的なホームページとしたい。また、判断基準も更新回数ではなく、閲覧数など別の指標とすることも検討したい。</p>
	<p>③ 部活動の加入を促し、学校全体の活性化を図ることで、生徒のチャレンジ精神の向上とレジリエンスの獲得を目指す。</p>	<p>1,2年生の部活動の加入率が A 90%以上 B 85%以上 C 83%以上 D 83%未満</p>	<p>9月現在()内は昨年同時期 1年生 96.7% (99.3%) 2年生 88.7% (76.9%) 1,2年生の部活動の加入率が 93.9% A評価 (昨年度) 88.1% B評価</p>	<p>1年生は全員が何らかの部活動に加入することになっている。2年生は昨年度のコロナの影響で公式大会が中止や縮小されており、十分な活動ができていなかったが、今年度は県総体・総文が開催されたこともあって3年生の最後まで継続して頑張ろうとしていると考えられる。</p>
	<p>④ 明倫祭の外部公開を継続し、校内開催と校外開催の内容を充実させ、近隣商業施設・小中学校でのポスター掲示などの広報活動を活発にすることで、地域と連携を目指す。</p>	<p>1日目の来場者数のうち小中学生・地域住民が A 330人以上 B 300人以上 C 270人以上 D 230人未満</p>	<p>一般公開をとりやめのためデータなし</p>	<p>昨年度と同様に新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、保護者を含め一般公開を取りやめた。そのため生徒は準備した企画を保護者・一般の方に発表したり、おもてなしをすることはできなかったが、2日間通して盛り上がる明倫祭にしてくれた。</p>
	<p>⑤ 図書委員会による本の読み聞かせや本の紹介カードの作成・展示など地域と連携した活動を行うことで生徒のチャレンジ精神と主体性の涵養を図る。外に出る機会は制限されるが、それでもできる範囲で活動していく。</p>	<p>地域と連携した図書委員会活動の回数が A 年間8回以上 B 年間5～7回 C 年間4～5回 D 年間4回未満</p>	<p>実施できたもの 1 図書選定実習(5月21日) 2 ビブリオ・トーク(6月18日)読み聞かせボランティアの方を招いて実施した。 3 絵本読み聞かせ講習会(7月2日) 実施できなかったもの 1 放課後子供クラブ学校訪問 2 絵本リーディング実習 3 明倫祭企画(企画自体は実施したが、一般公開ではなかった)</p>	<p>7月初旬までは校外での活動ができたが、7月末実施予定の放課後子供クラブ学校訪問は、先方の事情により今年度実施できず、8月ははじめの実施を計画していた絵本リーディングは、訪問先にコロナウイルス感染者が出たため直前で中止、明倫祭は一般公開をしなかった、などの事により当初計画よりも少ない活動となっている。後半も予定通りに実施できるか不安はあるが、できることを確実に実施していく。</p>

令和3年度 学校経営計画に対する中間評価

石川県立野々市明倫高等学校 No.1

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)
4 節度ある生活習慣の確立に努め、自ら挨拶し、読書に親しみ、ボランティア活動等にも積極的に参加する豊かな人材の育成を図る。	① 登校指導や生活指導などを通して、挨拶がしっかりできる人間の育成を図る。	朝の挨拶運動で協力していただく中で生徒同士や教職員、外部からの来客に対し、進んで自分からしっかり声を出し挨拶できた生徒が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	生徒同士や教職員、外部からの来客に対し、進んで自分からしっかり声を出し挨拶できた生徒が ()内は昨年度 良く当てはまる 28.8% (26%) やや当てはまる 51.9% (57%) 計80.7% (83%) A評価	新型コロナウイルス感染症の影響で、大きな声を出す機会が減ったためか、しっかり声を出す生徒が少ない。しかし、教員アンケートの同じ質問項目の回答でも「よく当てはまる」の割合が高くなっているなど、自ら挨拶する生徒は徐々に増えていると感じられる。
	② 登校指導や生活指導などを通して、自ら身なりを正すことで規範意識を育成する。	制服を意識的に正しく整えている生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	制服を意識的に正しく整えている生徒の割合が ()内は昨年度 良く当てはまる 65.7% (60%) やや当てはまる 32.9% (37%) 計98.6% (97%) A評価	制服着用はしっかりできていると感じられるが、女子でスカートを曲げてひざ上丈にしている生徒もいる。生徒課や担任だけでなく全教員で指導して行く必要がある。
	③ 交通安全教室や街頭指導を通して、自転車の安全運転の励行を図る。	交通ルール（自転車運転でイヤホン着用や並列走行をしない）を遵守している生徒が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	交通ルール（自転車運転でイヤホン着用や並列走行をしない）を遵守している生徒が ()内は昨年度 良く当てはまる 69.2% (74%) やや当てはまる 27.9% (22%) 計97.1% (96%) A評価	生徒の自己評価では交通ルールを守っている意識が高く、石川県警からの交通指導状況も4～7月で5件と少ない。(昨年度7件)しかし、2件が運転中の携帯電話使用の違反で、近隣の住民からも登下校時のイヤホン着用や並走についての指摘の連絡を受けている。生徒課を中心に全教員が連携して粘り強く声掛けを継続する。
	④ 学校内外のボランティア活動への積極的な参加を促すとともに、ボランティアに参加したことの達成感や地域貢献への意識を高める。	ボランティア活動に、積極的に参加した生徒の割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 40%未満	年度末に報告 1学期中は実施できず。	昨年に続き、新型コロナウイルス感染症のため、例年通りの部や生徒会企画によるボランティア活動ができていない。野々市駅・中央公園・学校周辺の清掃ボランティアのみ実施について各団体と調整中である。今後、新型コロナウイルス感染症の状況が改善された場合に、できる範囲で地域貢献につながる活動に取り組んで行く予定である。
	⑤ 生徒の良好な人間関係作りを支援する。	学校生活が楽しいと感じる生徒が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	1年 A 44.4% B 41.7%(6クラス) 2年 A 37.9% B 43.1%(7クラス) 3年 A 50.5% B 39.3%(7クラス) 平均値 85.6% B評価 (昨年度) よく当てはまる41.1%+やや当てはまる47.6%=88.7% B評価	昨年度7月の調査と比べ、「楽しい」と感じる生徒が微減した。2年生で「よく当てはまる」という生徒が少なく、3年生が多い。2年生の結果については入学当初から休校措置でコロナ禍の影響を多く受けていることが原因かもしれない。友達との安心感のある関わりを築けるような学校行事の充実が課題である。
	⑥ 情報の収集、共有を密に行い、困難を抱えた生徒に対して早期に対応し支援する。	生徒の変化に対して a（素早く対処し、解決に至った）、b（素早く察知し、対応することができた）の割合が A 95%以上 B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	a 37.0% + b 58.7%=95.7% A評価 (昨年度) a 25.5% + b 72.5%=98.0% A評価	生徒がアンケートなどで申告するすべての問題について、素早く対応することができている。日頃から生徒を観察し問題があれば相談室、生徒課、学年で情報共有し迅速に対処している。解決に至るのが難しい問題もあるが、校内の連携と関係機関の協力を得て、解決に向かうことができるよう努めていきたい。
	⑦ 歯科検診の結果で健康管理上、受診・治療が必要と診断された生徒に対し、個人面談を通して自己の健康課題を意識させ医療機関での受診率を高める。	歯科検診の結果から自己の健康管理上、受診・治療の必要性を理解し医療機関を受診した生徒の割合が A 65%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 45%未満		
	⑧ 図書委員による図書便りや本の紹介の作成・発行などの図書案内や各学年団と連携した一斉読書や読書タイムといった読書指導によって、読書に親しむ習慣を身に付けさせる。	生徒一人あたりの本校図書館の年平均貸出冊数が A 5.0冊以上 B 4.0冊以上 C 3.5冊以上 D 3.5冊未満	4月～8月貸出 973冊 1年生 690冊 2年生 84冊 3年生 199冊	総体総文期間中の一斉読書の実施や、1年生の貸し出し数の増加により、全体として好調である。2年生の貸し出しをいかにして増やすかが課題である。

令和3年度 学校経営計画に対する中間評価

石川県立野々市明倫高等学校 No.1

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)
5 GIGAスクール構想の実現に向けた教職員の研修をとおしてICT活用指導力の向上を図るとともに、多忙化の改善に取り組む。	① GIGAスクール構想の実現に向けた教職員の研修をとおしてICT活用指導力の向上を図る。	研修をとおしてICT活用指導力が向上した教員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 50%未満	研修をとおしてICT活用指導力が向上した教員の割合が87% A評価	短時間ではあるが計画的・継続的に月1回の校内研修を実施しており、Chromebookを活用した授業も行われている。今後も教員のニーズにあった研修を継続しICT活用指導力の向上に努めていきたい。
	② 業務負担の軽減や時間管理の改善などにより、職員の多忙化改善を進める。	時間外勤務が80時間を超える教職員の月平均の人数が A 0人 B 1.0人未満 C 2.0人未満 D 3.0人以上	(単位：人) 4月 5月 6月 7月 平均 80時間以上 6 6 6 3 5.3 うち100時間以上 2 0 1 1 0.5 昨年 80時間以上 0 0 1 2 0.6 D評価	授業や校務、部活動指導で、月80時間を超える教職員は多い。100時間を超える先生も毎月平均0.5人いるのが現状である。教育の質を確保しつつ、ICTの活用をはじめとした業務改善や先生方の意識改革で、過重な労働とならないようさらに取り組みを進めていきたい。